

小学校ではこんな英語の活動をしています

— 荒川区第六日暮里小学校の実践から —

東京都荒川区立第六日暮里小学校 飯田 秀男

子どもたちに英語を教えるようになって6年目。荒川区全体でも、構造改革特区の認定を受け、全学年で英語を教えるようになって4年目になる。導入当初は、英語の指導にとまどいもあったが、実践を重ねるにつけ英語の指導が特別なものではなく、他の教科と同じように指導することができることが分かってきた。

本校では担任が主となり英語指導を行っているが、どの学年も同じねらいで英語科の授業を進めるためのポイントを設定し、授業を組み立てている。

1 小学校で英語活動を進める上で留意していること

① 各時間のねらいを明確にする

2年生のテーマ「リングは好きですか」では、次のような具体的なねらいを設定して授業を行っている。1時間目は「テーマの中で出てくる果物の言い方が分かる」というねらいを設定し、an apple, apples, grapes, a melon など、単数形と複数形の果物の言い方を理解できるようにする。2時間目は、Do you like apples? の質問の意味を理解することと、それに Yes, I do. / No, I don't. で答えられること。3時間目は、Do you like apples? の質問を言うことができること（applesのところは、自分が聞きたいものを入れて質問をする）。4時間目は、それらを活用する力

を身につけること。

このように、ねらいを具体的に設定することで、指導の方向性を明確にすることができるようになった。

② 担任だけで行う時は、ネイティブの音声を必ず聞かせる

授業の中で、担任だけで授業を進める場面もあるが、あらかじめ ALT に授業で使う表現を録音してもらって使ったり、音声教材を授業の中で必ず使うようにしている。

③ ALTと英語教育アドバイザーと授業構想について事前に打ち合わせする

英語を指導するに当たって授業のねらいや使用する英語表現などのチェックを受けて授業の構想について必ず打ち合わせを行うようにしている。

④ NTE（ノンターゲットイングリッシュ）の活用

子どもたちが日常的に使う言葉を身につけさせる。Right. Left. Let me try. It's my name tag. Me too. Up side down. Turn it over. など、授業の中で、子どもたちが話することができるように、意図的に場面をつくる。

⑤ コミュニケーションの活動では、反射的なゲームにならず、相手の話を聞いてから行動に移るような、必然性のある活動を考える。

お店屋さんなどの活動をする時には、子どもたちが必要な会話をせずに買い物を進

めてしまう場合がある。場面の設定を工夫して、必ず会話を通して活動をするように工夫している。

- ⑥ 日本語を使って、1時間に活動したことを振り返る。

授業は、無理のない範囲で英語を使って進めるようにしているが、各時間のまとめの時間には、日本語で、「今日できるようになったこと」「こんな時に使えそうだと思うこと」を聞くことで、学習の振り返りができるようにしている。

2 授業の実際（3年 What sport do you like? 4時間配当の4時間目）

- ① あいさつ

午前中ならば、“Good morning, everyone.”のあいさつから授業を始める。

- ② ネームタグを配る

“Whose is this?” “The first letter is Y.” などと言って配る。子どもたちは、“It’s mine.” “It’s ~’s name tag.” と言うので渡していく。

意図的にネームタグを裏返しや逆さまに提示するようにしている。それを見ると子どもたちは、“Turn it over.” “Up side down.” などと反応している。

- ③ 前時までに学習した表現の復習

前時までに学習した “What sport do you like?” の言い方の練習をする。この時に、sport の部分に入る言葉を sport, fruit, drink, food, color などの言葉に入れ替えながら練習する。

練習する時は、全体から、グループそして個人へと習得状況を把握しながら、リピート練習を進める。活動の中で使う表現として、“How about you?” “Me too.” などの表現の練習も行った。

- ④ 相手の好きなものを聞く活動

What ○○ do you like? の○○の部分に

sport, fruit, drink, food, color のどれかを入れたカードを作り子どもたちに渡す。子どもたちは、カードに書かれたものを友達に聞く活動をする。この活動では、質問される側が、何について聞かれるか分からないので、必然的にしっかり相手の質問を聞く活動ができるようになる。また、“How about you?” “Me too.” などの返答をするためには、相手の答えもしっかり聞かなければならない。このような活動を通して、「話す」「聞く」といった基本的なコミュニケーションに必要な能力を育てている。

子どもたちが活動している時は、教師も加わって会話をしている。そうすることで、子どもたちが取り組む様子や個々の習得状況を把握するようにしている。

- ⑤ 日本語で振り返る

学習の振り返りは、日本語で行う。子どもたちからは、「外国に行った時に使いたい」「外国の人が給食を食べにきた時に聞いてみたい」「前より、質問を間違えずに言えるようになった」などの感想があった。

3 英語活動によって子どもたちはこう変わった

本校では、年に2回海外からの留学生を数名招いて自由に会話する時間を作っている。この活動の中で、子どもたちは、学習した表現を使って生き生きと会話を楽しむことができるようになった。

英語の授業をすることで、「聞こうとする姿勢」や「伝えようとする姿勢」が身につけてきたことである。昨年より、中学校の英語の先生との交流授業も行っている。今後交流を深めながら、小中の接続についての研究を深めていきたい。